

この人に聞く 岩手 2026年の業界見通し

新年の経済はどのような動きになるでしょうか。当社では、日本銀行の柳宏樹盛岡事務所長に今後の見通しなどについてお聞きするとともに、県内の主な業界団体の代表者や企業経営者の方々に業界の動向などについてお尋ねしました。



2026年の岩手県経済の展望

日本銀行盛岡事務所 所長 柳 宏樹 氏

わが国経済の現状と先行き見通し

わが国の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。輸出や鉱工業生産は、基調としては横ばい圏内の動きを続けている。企業収益は、全体としては高水準を維持しており、設備投資は緩やかな増加傾向にある。個人消費は底堅く推移している。住宅投資は減少している。公共投資は横ばい圏内の動きを続けている。

先行きは、各国の通商政策等の影響を受けて、海外経済が減速し、企業収益なども下押しされるもとで、成長ペースは伸び悩むと考えられる。その後については、海外経済が緩やかな成長経路に復していくもとで、成長率を高めていくと見込まれる。

県内経済情勢と展望

次に、岩手県経済をみると、一部に弱めの動きもみられるが、持ち直している。公共投資は持ち直している。設備投資は増加している。個人消費は、雇用・所得環境が改善しているもとで、緩やかに回復している。住宅投資は減少している。この間、生産は持ち直している。

先行きについては、基調としては上向きながら、海外経済の減速により、そのペースが一旦鈍化する可能性がある。海外経済については、通商政策等が経済に及ぼす影響を巡る不確実性は、なお高い状況が続いている。ウクライナや中東情勢等が海外経済を下押しする可能性があるほか、中国経済についても先行きには不透明感がある。

こうしたなか、県内企業における賃上げの動きが今後も継続し、広がっていくかにも注目している。人件費を含めた価格転嫁や生産性の向上により収益力を高めるなどして、賃上げのための原資を確保できるかがポイントになると考えられる。

このように、本年の岩手県経済の動きについては、様々なりスクを念頭に置きつつ、注視していく必要がある。そのうえで、岩手の皆さまと交流するなかで感じてきた温かみや穏やかさといった気立ての良さや、食・自然・街などの岩手ならではの魅力を、今後は控え目なところを少し引っ込めつつ、対外的にもっとアピールすることで、経済の一層の活性化につなげていくことを期待したい。